

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2012年4月～2013年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた  
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 大牟田市立倉永小学校

種別  幼稚園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒837-0906  
福岡県大牟田市大字倉永1307番地

児童生徒数：男子 149 名 女子 110 名 合計 259 名  
児童・生徒の年齢 7 歳～ 12 歳

2. 担当者

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

#### 4. 活動概要

1年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付資料をつけていただいても構いません）。

##### 1年「むかしあそびをしよう」（伝統文化・福祉教育）

1年生の祖父母をゲストティーチャーとして招き、「こま・竹馬・竹とんぼ・おはじき・お手玉・けん玉・羽子板・めんこ・まりつきなど」日本に残されている昔遊びを通して交流を行い、昔の子ども達の様子や生活を教えてもらったり、遊び方を教えてもらったりした。

##### 2年「ぐんぐんのびろ」（食育）

オクラやきゅうりなどの夏野菜、ラディッシュ・かぶなどの冬野菜を個人・共同に分け、育てた。夏野菜を育てた時のお世話の仕方について考え、水やりや草取りが足りなかったという課題をもとに、冬野菜に取り組んだ。作ったものを食したり、卒業する6年生へプレゼントしたりすることで栽培の大変さや収穫の喜びを味わわせ、食の大切さを学んだ。

##### 3年「新1年生に読み聞かせをしよう」（思いやりの心・人権）

入学説明会で新一年生のために推薦図書一覧をもとにしながら3年生の子どもたちが思い思いにおすすめた本を選び、読み聞かせを行った。2学期に、読み聞かせボランティア「たんぽぽ」の方をゲストティーチャーとして招き、読み聞かせの仕方（アニメーション等）を学んだ。このことを生かして楽しい読み聞かせ会にすることができた。

##### 4年「ゴミ減量大作戦」（環境教育）

大牟田市の環境保全課の職員の方々を講師として招き、ゴミを処理することの大変さや工夫について学んだ。そして、ゴミを減らすことについて自分でできることを考え、模造紙にまとめ発表会を行ったり、リサイクルボックスを作って各クラスに配布し、リサイクルに協力してもらったりした。

##### 「茶の湯教室」（伝統文化）

お茶の先生2名を招き、お茶の歴史を学んだり、実際にお茶を点てたりして、日本の伝統文化の良さを体験した。その後、日本の伝統文化の中で興味があるものについて調べ、新聞にまとめて学級内で交流した。

##### 5年「環境問題について考えよう」（環境）

地球温暖化や森林破壊、酸性雨等、国語科、社会科で学習した内容を発展させ、図書館にある本やインターネットによる情報を資料として、自分たちにできる環境問題保全の方法を、模造紙や画用紙にまとめ、発表会を行った。

##### 6年「お年寄りとつながる地域」（福祉）

校区内にある老人福祉施設『吉野園』を訪問し交流を行い、お年寄りの方々を尊敬する心といたわる心の大切さを感じ取り、自分の祖父母や近所のお年寄りに対する接し方を考えていった。

**活動時間について（下記から選択して下さい。）**

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）  
 時間外活動の時間を使用  ユネスコクラブの活動として実施  
 その他（ ）

**成果について（教育の質の向上に効果があった活動。）**

- 栽培する活動を通して、収穫に至るまでの過程を体験することができ、育てることの大変さやできたときの喜び等を実感することができた。また、いつも食べているものに対するありがたさや育てている方の思い等も少しは考える機会になったようである。
- リサイクルボックスを各クラスの配布することで、自分たちだけでなく、多くの人達で環境保全に取り組まなければいけないという意識が高まった。
- 日本の伝統文化の素晴らしさを感じ取り、より深く知りたいという興がわいたり、今後大切にしていこうという気持ちが培われたりした。
- 地球規模の環境破壊や、エネルギーや水などの資源保全が問題化されている現代において、人類が現在の生活レベルを維持しつつ、次世代も含む全ての人々により質の高い生活をもたらすことができる状態での開発を目指すことが重要な課題となっていることを認識した。
- 「吉野園」を訪問することで、直接お年寄りと交流した。こちらからどのように話題を投げかけるか、どのような受け答えがいいのか、思いやりを持った接し方について考えさせることができた。同時に、お年寄りの方々に喜んでいただけたことが実感でき、これからの自己の生き方や行動のあり方について、実践意欲を高めることができた。

**実施テーマにおける教材の工夫や授業手法における工夫**

- 個人で育てることにおいては、育てたい野菜を自分で決めさせたこととお世話をすることの責任感をもたせることができたようにした。共同で育てる野菜においては、協力して一つの野菜を育てるということに取り組んだ。土作りの時から、野菜作りに詳しい校長先生に入っただき、子どもの質問にも答えていただいた。
- 個人個人のレベルで地球上の資源の有限性を認識させるとともに、自らの考えを持って情報収集した内容を整理・分析し、それにふさわしい資料を模造紙や画用紙を使って作成させ、地球環境の危機的状況や今自分たちにできることを発信させるために、4年生を対象とした発表会を設定した。
- 活動した内容を模造紙にまとめたり、新聞やリーフレットにまとめたりして意見の交流をさせたりすることで、自分が周りの人とどう関わっていくのか、どう繋がっていくのか考えていくような指導を行った。
- 専門的な知識や技能をもってある方々にゲストティーチャーとして来校していただき授業に参加していただいたので、学習の内容がより深まった。

**活動の内容を補完する以下の資料があれば添付願います。※公表しません**

- 紙媒体の参考資料（新聞、出版物など）  CD-ROM  写真  
 その他（ ）